

平成27年度第1回大阪府立豊中高等学校学校協議会議事録

日時 平成27年5月8日(月) 16:00~18:10

場所 校長室

出席者(敬称略)

委員 西澤 信善(近畿大学客員教授)、越智 克司(豊陵会副会長)、藤田 貴支(PTA会長)、
岩元 宏司(塾執行役員)、森 修二(豊中市立上野小学校長)

校長

事務局 教頭、事務長、上林首席、朝倉首席、池田指導教諭、羽柿進路指導主事、楠山 SET、
綾城 SGH 研究開発主任

1. 校長あいさつ
2. 自己紹介
3. 会長選出 互選により西澤氏を会長に選出
4. 会長代理選任 越智氏を会長代理に指名
5. 会長あいさつ
6. 協議

(1) 平成27年度学校経営計画について

(校長から説明)

中期的目標の一つ目は「進路を切り開く学力の育成」、二つ目は「国際舞台で活躍する人材育成」、三つ目は「教員の授業力等の資質向上に向けた取り組み」となっており、それぞれ目標を達成するため具体的な取り組みを記載している。

(2) 平成26年度の進路状況について

(羽柿進路指導主事より説明)

358名の卒業者のうち257名が進学し、101名が浪人となっている。浪人生の中には大学に合格したが浪人している生徒もいる。昨年度(66期生)から、東北大学や九州大学等の地方の国公立大学にも目が行くようになった。また、自分のやりたいことを実現するために大学を選択するようになってきた。

私立では立命館大学が茨木キャンパスをオープンしたこともあり、人数が増加している。また、近畿大学も増えてきている。

今年の合格者の特徴は、普通科がよく検討したという印象がある。次に、新課程に変わるにあたって理科数学が先行実施された。特に文系については理科の基礎科目が2つ必要となったため、センター試験の受験科目が増加した。このあたりが国公立受験にあたっての課題と認識している。

また、昨年までは理系人気であったが、今年は文系が人気となってきている。

(委員より質問)

○高校生から将来を見据えて進路を決めているとのことであるが、そうした情報は与えているのか。

⇒大学との交流が格段に進んであり、大学の情報を直接感じているということが大きい。

(3) TOEFL 仕様の授業について

(楠山 SET より説明)

大阪府の骨太の英語力養成事業(3年計画)の1年目。4技能を統合させた授業を行い、生徒の英語

運営能力の向上を図ることを目的としている。本年度は文理学科の82名を対象としている。

TOEFLは4技能を別々に測定するものであるが、1年生からできるところから始めていき、1年から3年にかけてすべてのタスクを段階的に行う。

SET（スーパーイグ リットィファイヤ）は、大阪府が本年度から実施した事業で今年度から2年間かけて17校に配置する予定となっている。今年度はそのうちの10校に配置された。豊中高校もそのうちの1校である。

（委員より質問）

○到達度を測定するためのテストは行うのか。

⇒TOEFL iBT チャレンジを毎年受けることになる。

○国公立大学入試はリスニングを要求しているのか

⇒センター試験では必ず実施される。大学によっては2次試験で要求するところもある。

○TOEFLの数値目標はあるのか

⇒ステージ目標がある。大学においても近年、TOEFL や GTEC など英語外部検定のスコアを英語の点数にみなすところが増えてきている。

(4) SSH 事業の取り組みについて

SSH 事業は今年度第2期目となり、今後5年間取り組むこととなる。理系を希望する生徒は中学生段階から理系を希望しており、「中高最大5年間一貫プログラム」として、中学生段階から支援を行うとともに、大学に進学しても本校 TA として活用するなど、中学生から大学の初期まで研究活動が途切れないようにしたい。

さらに、高校時代に難しいことばかりさせるのではなく、積極性や忍耐力など心の部分を伸ばすことも必要。このため、「心のループリックによる評価」を行い、生徒の心理状況の客観化を図ることとしたい。

（委員より質問）

○中学校と大学との連携が重要となるがその点どうしているのか。

⇒これまで本校で土曜日に実施しているスーパーサイエンスセミナーのプログラムを活用し、中学生向けのプログラムを実施したい。また、大学については大阪大学が TA を派遣するプログラムがあり、現在うまく連携できている。

(5) SGH 事業の取り組みについて

文理学科の課題研究において、理系 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）のプログラムを実践してきたが、文系は体系的なプログラムにはなっていなかった。そこで、文系課題として SGH（スーパーグローバルハイスクール）の申請に向けて、体系的なプログラム開発を行った。

具体的には、本年度、他校が取り組んでない分野であることや、今後新たにグローバルスタンダードづくりをめざして、異文化理解としてイスラームをターゲットに申請し、SGH の指定を受けることとなった。イスラームのことはよく理解されていない。しかし、ビジネスチャンスには繋がると考えており、生徒にはイスラーム文化など課題について考えさせていきたい。

(6) その他

・入試制度の変更点などについて説明について

・次回は7月16日 16:00 から開催予定

・議題は、教科書選定等について

以上